

道路が繋がる、地域が広がる — 国道289号八十里越 長岡国道事務所の歩みと 広報の実践について —

三品 祐太¹・小出 央人¹

¹長岡国道事務所 計画課 （〒940-8512 新潟県長岡市中沢4丁目430番地1）

一般国道289号八十里越事業は、事業化から40年の歴史を辿り、令和9年夏に暫定開通を迎えようとしている。八十里越は、新潟県と福島県の県境に位置する延長約20.8kmの事業で、豪雪地帯、急峻地形という厳しい自然条件の中、地元の大きな期待を背負って、両県と当事務所で事業を推進してきた。本論文では、当事務所が八十里越に挑み続けてきたこれまでの約40年の歩みを概説し、当事務所が取り組んできた道路事業と観光、地域振興が一体となった広報活動について紹介する。

キーワード 道路改築事業、開通、インフラツーリズム、地元連携、情報発信

1. はじめに

一般国道289号八十里越事業（以下、「八十里越」という。）は、新潟県新潟市から福島県いわき市に至る一般国道289号のうち、唯一の通行不能区間として長年残されてきた県境部の延長20.8kmの事業である。

いわゆる奥会津と中越後を結ぶ峠道としての“八十里越”の歴史は長く、1868年の北越戊辰戦争の際には進軍ルートとして、1894年には商人たちが荷馬を引いて往来できるように整備され、物資輸送の道として利用されてきた記述が残っている¹⁾。しかし、1914年の岩越鉄道開通によってそもそもこの峠道の利用者が減少したことや1926年の大雨災害の影響により、1970年には、かつてこの峠道の麓で宿場町として栄えた新潟県側の吉ヶ平村が集団離村するなど、ほぼ廃道に近い状態であった。時を経て、第二次世界大戦後の広域道路整備構想の中で日本海側と太平洋側を結ぶ重要路線と位置付けられ、1970年には国道289号として一般国道への昇格、1986年には八十里越が事業化され、新潟県、福島県および当事務所で連携して道路整備を進めてきた。

八十里越の開通により、新潟県県央地域と福島県南会津地域を結ぶ新たな広域交通網が形成され、物流、観光の活性化や地域間交流の促進、さらには救急医療体制の強化や災害時の代替路確保など、多面的な効果が期待されている。事業化から約40年が経過した現在、八十里越

は2027年夏の暫定開通に向け、工事は最終局面を迎えている。また、当事務所では、着実な事業推進を図るとともに、八十里越が持つ歴史的な価値や地域の魅力、事業の意義を広く発信するための広報活動にも継続して取り組んできた。本論では、当事務所が八十里越に挑み続けてきたこれまでの歩みを簡単に振り返りつつ、当事務所が実践してきた広報活動に着目し、その取組と成果について論じる。

2. 八十里越の概要

(1) 事業の特徴

八十里越は新潟県三条市塩野沢字御所から福島県南会津郡只見町大字叶津字入叶津までの延長20.8kmの事業である。事業区間の内、新潟県が延長1.2km、福島県が延長7.8km、当事務所が直轄権限代行として残りの延長11.8kmの整備を推進している（図-1）。当該区間は、越後山脈の急峻な山岳地形に位置しており、連続する地すべり地形や、豪雪地帯特有の大量の降積雪等は、工事推進にあたって大きな制約を与えており、技術的難易度を高める要因となっている。

また、ユネスコエコパークにも登録されている越後三山只見国定公園を通過することや、既往の環境調査によって希少な動植物の生息・生育が確認されていることから、事業推進にあたっては自然環境へ



図-1 八十里越事業の平面図 凡例：赤字が工事中の構造物

の十分な配慮が求められる。

(2) これまでの工事の歩み

当事務所では、八十里越20.8kmのうち、特に地形条件が厳しく、橋梁やトンネルなどの大規模構造物が集中する11.8km区間について整備を進めている。八十里越は1986年に事業化され、2026年で41年目を迎える事業である。当事務所施工区間は、橋梁、トンネル、スノーシェッド等の多数の大規模構造物が集中する極めて条件の厳しい区間であり（表-1）、それらの整備にあたっては豪雪、急峻な地形、複雑な地質条件、豊かな自然環境への配慮など、多くの制約への対応が求められた。

事業推進における最も障壁となった条件の一つが、豪雪地帯特有の降積雪である。多量の降積雪や雪崩発生リスクにより、施工可能期間は年間の半分程度に限定される。そのため、毎年、雪崩の専門家等と連携した現地調査を実施し、安全性を確認した上で工事の再開時期を判断するなど、自然条件に応じた施工管理を行ってきた。

自然環境への配慮については、平成8年より環境調査を継続して実施しており、環境保全を適切に実施しつつ、円滑な道路事業を推進するために、学識経験者等によって構成される環境検討委員会を設立し、助言を受けながら、自然環境との共生を図ってきた。

また、限られた施工期間の中で事業を着実に進めるため、施工業者と当事務所担当者等による工事関係者連絡会議を定期的に開催し、工事進捗や課題の共有を行っている。加えて、当事務所のみならず、両県との情報共有を密に図るべく、ワーキンググループを継続的に開催し、各区間の進捗状況や技術的課題等を共有している。こうした関係機関が一体となった緻密な工程管理により、事業全体の円滑な推進を図ってきた。

このように当事務所では、多様な課題に向き合いながら事業を推進してきた。令和8年7月現在、当事務所施工区間における主要構造物は概ね整備され、現在はスノーシェッドやトンネル設備、舗装工事など、令和9年夏の

暫定開通に向けた最終段階の施工を進めている。引き続き関係機関や施工者と連携しながら、安全かつ着実な事業推進に取り組んでいく。

表-1 施工区間ごとの構造物数と延長

	国土交通省		新潟県		福島県	
	構造物数	延長	構造物数	延長	構造物数	延長
総延長	11.8km		1.2km		7.8km	
橋梁	10基	1.1km	1基	0.1km	9基	0.5km
トンネル	11基	9.3km	1基	0.5km	3基	1.5km
ロック・スノーシェッド	10基	0.7km	1基	0.0km	5基	1.3km

表-2 事業経緯（概成した構造物をその年度に記載）

西暦	出来事・概成した構造物		
1986	事業化		
1989	工事着手		
1998	8号トンネル(延長186m)		
2002	11号トンネル(延長1417m)	1号橋梁(延長239m)	
2004	10号トンネル(延長138m)		
2007	5号トンネル(延長660m)		
2009	8号橋梁(延長60m)		
2012	9号トンネル(延長3168m)		
2013	4号橋梁(延長131m)		
2016	7号トンネル(延長949m)		
2018	7号橋梁(延長33m)	6号トンネル(延長1195m)	2号橋梁(延長190m)
2019	1号トンネル(延長733m)	3号橋梁(延長64m)	
2020	6号橋梁(延長15m)		
2021	2号トンネル(延長504m)	3号トンネル(延長168m)	
2022	4号トンネル(延長178m)	A橋梁(延長23m)	5号橋梁(延長337m)
2024	B橋梁(延長49m)		

3. 長岡国道事務所の広報活動

八十里越は単なる道路整備事業ではなく、新潟県と福島県を結ぶ新たな広域道路ネットワークの形成や、沿線地域の活性化にも大きく寄与する事業である。そのため、工事の進捗状況や開通効果を広く発信し、地域住民や関係機関の理解促進と開通機運の醸成は、当事務所の使命の一つである。また、開通効果を最大限に発揮するためには、道路整備だけでなく、沿線自治体や関係機関と連携しながら地域づくりや観光振興を進めていくことが重

要である。

本章では、当事務所が実施してきた主な広報活動を(1)情報発信型、(2)現場体験型、(3)地域連携型の3つの観点から紹介する。

表-3 広報活動の目的における3つの型に対する評価と取り組み例

広報活動型	広報活動の目的				取り組み例
	工事・事業への理解	地域の理解	国民の理解	建設業界の担い手	
(1)情報発信型	○	◎	○	○	動画やパンフレットの作成 メディアへの説明会
(2)現場体験型	◎	△	○	◎	現場見学会 バスツアー（インフラツーリズム）
(3)地域連携型	◎	△	◎	○	イベントにおける現場協力 地域づくり会議への参加

(1) 情報発信型

情報発信型の広報は、多様なメディアを活用し、継続的に実施してきた情報発信等の取組と定義した。広報の中でも最も基本的な内容であるが、発信方法が多様であり、創意工夫次第によってより多くの方に発信することができる。従って、地域住民や関係機関の理解促進、開通機運の醸成等に重要な役割を果たすと考えられる。

a) 事業パンフレット-八十里越を翔る³⁾

事業概要や整備効果等を発信すべく、「八十里越を翔る」の名称で事業パンフレットを作成している。計8ページで構成され、事業概要や整備効果に加え、八十里越の歴史、自然環境等についても分かりやすく掲載している。



図-2 R7.3作成の「八十里越を翔る」パンフレット

b) 動画の作成

事業パンフレット等では伝えきれない現場の実態や地域の期待を発信するため、2024年に八十里越の紹介動画を作成し、公式HPやyoutubeに公開している。作成にあたっては、沿線地域のキーパーソンや工事関係者へのインタビューを行い、八十里越開通への期待や、工事の難しさ等、生の声を収録した。この動画はyoutubeで約1.9

万回⁴⁾(7月21日時点)再生されている。また2026年には現在の工事進捗状況を臨場感をもって伝えるために、本線全線を撮影した動画を公開している。この動画はyoutubeにおいて約6.7万回⁵⁾(7月21日時点)再生されており、開通への大きな期待がうかがえる。その他、八十里越を象徴する構造物である橋梁の建設過程を映したタイムラプス動画、ドローンによる撮影映像等、動画コンテンツは幅広く公開している。

上述の動画等については、地域の団体や沿線自治体からも多くの反響があり、無償提供することで、地域の様々なイベント等に活用されている。イベント参加を通じて、多くの方の目に触れる機会を創出している。



図-3 八十里越 PR 動画 フル ver. の抜粋

c) 八十里越だより⁶⁾

八十里越だよりは、工事の請負業者で構成されている八十里越地区工事関係者連絡会議によって、平成9年より毎年発行されている工事誌である。令和7年度の発行でNo. 37まで到達しており、その年に行っている工事と請負業者の紹介に加え、八十里越に関連するイベント等についても掲載されている。道路事業が多数の工事関係者によって支えられていることを周知する内容となっている。

d) 報道機関に対する現地説明会

工事の節目には報道機関を対象とした現場説明会を開催し、事業の進捗状況等を直接説明することで、新聞やテレビ等を通じた幅広い情報発信につなげている。直近では2026年6月に開催しており、沿線地域の新聞社、テレビ局等16社が参加した。その後、参加した報道関係企業から八十里越に関する記事やニュースが、新聞やテレビ、その他インターネットで配信されて、八十里越の幅広い認知に寄与している。



図-4 youtubeやweb上の八十里越ニュースに関する検索結果

(2) 現場体験型

現場体験型の広報は、事業主体として現場を有する強みを生かし、普段立ち入ることができない事業区間で、工事の臨場感やスケールを感じてもらい情報発信と定義した。本取組は、現場で直接触れることができ、参加者に強く印象を残すことができる取組であると考えられる。

a) 八十里越工事現場見学会

(1)情報発信型で報道機関の現場説明会について取り上げたが、本取組は沿線住民等を対象とした取組である。過去に遡ると本線工事に本格的に着工した1997年に第一回目の八十里越工事現場見学会が行われた⁶⁾。その後も継続して見学会を実施してきており、その年の工事状況について、情報発信をしてきた。工事着工から現代に至るまで、時代を超えて八十里越への関心の高さがうかがえる。

b) 秘境八十里越体感バス

2012年に八十里越の事業区間の中でも、県境部を通過し延長が最も長い9号トンネルの貫通を受け、車両での往来が可能になったことがきっかけに、三条市が主催で始まった取組である。本取組は国交省が推進するインフラツーリズムポータルサイトに登録されており⁷⁾、本取組が単なる道路事業の情報発信にとどまらず、道路が観光資源としても活用され、地域間の交流にも寄与していることを発信できる機会としても活用されている。当事務所では、参加者と事業区間内の主要構造物をめぐり、これまでの工事の歩み等について丁寧に説明を行っている。令和5年には累積参加者1万人を達成するなど、普段は立ち入ることのできない工事現場を見学できる貴重な機会として高い人気を集めている。



図-5 秘境八十里越体感バスの様子

c) 八十里越バンジーフェス

2026年6月に三条市が主催で開催された取組で、八十里越を象徴する八十里越天空大橋（5号橋梁）でバンジージャンプが行われた。バンジージャンプ自体、日本でも実施可能な場所が限られているのが現状であるが、供用前の事業区間内での開催ということもあり、全国的にも大変稀なイベントとなった。全国から参加者を募集し、募集が始まって一日ほどで定員に達した。当事務所は、企画から携わり事業区間内での安全管理等に関す

る助言を行ったほか、当日にも車両の先導、当日の参加者への事業説明等を行った。八十里越の特色を活かしたユニークな取組により、全国の多くのメディアにも取り上げられ、全国的な知名度向上に寄与した事例となった。



図-6 八十里越バンジーフェス当日の様子

d) 中高大生への現場見学会

当事務所では、沿線地域の学生を中心に、建設業界の担い手確保に資する現場見学会も実施している（表-4）。毎年数十名から百数十名を受け入れており、参加者の学生たちからは、「*普段の学習では経験できないことを学ぶことが出来ました。これからの進路に活かしていきたい。*」⁸⁾、「*道路が完成すれば、他の地域から下田を訪れる人が増えると思う。そのため私たちで下田をよりよくしていきたい。*」⁹⁾等の感想をいただいている。八十里越を題材に、建設業のダイナミックな魅力等を次世代を担う学生に発信することで、建設業への関心を醸成している。

表4 直近10年間における中高大生への現場見学会の開催履歴

年度	月日	学校名	参加者数
令和7年	9月9日	新潟県立加茂農林高等学校	39名
令和6年	10月16日	長岡技術科学大学	6名
	7月12日	新潟県立新潟県央工業高等学校	42名
	6月2日	福島県只見高等学校	22名
令和5年	10月27日	三条市立下田中学校	58名
	10月18日	塩沢商工高等学校	33名
令和4年	9月27日	長岡工業高等専門学校	20名
	9月12日	新潟大学大学院	4名
	9月2日	長岡工業高等専門学校	5名
令和3年	6月16日	長岡工業高等専門学校	20名
	9月26日	長岡工業高等専門学校	44名
令和元年	9月18日	加茂農林高等学校	16名
	7月4日	塩沢商工高等学校	64名
	6月25日	長岡技術科学大学	12名
	10月11日	塩沢商工高等学校	53名
平成30年	9月27日	長岡工業高等専門学校	41名
	9月7日	新潟県央工業高等学校	20名
	8月23日	塩沢商工高等学校	15名
	6月26日	長岡技術科学大学（メキシコ留学生）	9名
平成29年	9月27日	長岡工業高等専門学校	42名
	7月11日、12日	塩沢商工高等学校	74名
	6月28日	長岡技術科学大学（メキシコ留学生）	6名
平成28年	7月12日、14日	塩沢商工高等学校	36名
平成28年	7月6日	長岡技術科学大学（メキシコ留学生）	10名

(3) 地域連携型

地域連携型の広報は、沿線自治体や関係機関と連携しながら、地域全体で開通機運の醸成や地域振興に資する情報発信等の取組と定義した。地域の関係機関等が主体となる取組のうち、当事務所が協力し、開通への気運醸成に寄与した取組を紹介する。

a) 三条市、只見町の小学生によるタイムカプセル埋設

タイムカプセル埋設イベントは、地域住民の参加を通じて、道路事業への理解、期待および親しみを醸成した事例である。2014年には三条市の森町小学校と只見町の只見・朝日・明和小学校の3、4年生計86名が6号大盛土にてタイムカプセルを埋設した。三条市と只見町の主催で、長岡国道事務所は現場協力の立場で、現場利用提供、施工業者との調整等を行った。

タイムカプセルには未来の八十里越と自分に宛てたメッセージが入っていて、小学生へのインタビューでは「三条市と只見町が繋がったら三条市の人にも只見のすばらしい自然にふれてほしい。」¹⁰⁾など、道路を身近に捉える契機となったほか、道路を通じて2市町が繋がる未来を考えるきっかけになったと考えられる。



図-7 タイムカプセル埋設イベント当日の様子

b) 越後・南会津街道観光・地域づくり懇談会

越後・南会津街道観光・地域づくり懇談会は、開通後を見据えた地域づくりと連携した事例である。越後・南会津街道観光・地域づくり円卓会議は三条市、只見町および南会津町が主体となり、2020年に始まった¹¹⁾。同懇談会では、八十里越開通を見据えた観光や地域づくりに関わる活動について関係機関から情報共有が行われ、当事務所からは八十里越の事業説明と進捗状況を情報提供している。自治体や観光関係者との意見交換を通じて、開通後の観光振興や地域間交流を見据えた連携の場として機能している。

c) 構造物名称の決定

2025年10月には国道（289号）八十里越地点開発促進期成同盟会が、八十里越を象徴する以下の4つの構造物の名称を公募し、2026年3月に名称を決定した¹²⁾。

- ・馬追沢橋（2号橋梁 延長：190m）応募総数1103点
- ・八十里越天空大橋（5号橋梁 延長337m）604点
- ・丸倉トンネル（8号トンネル 延長186m）832点

- ・八十里越トンネル（9号トンネル 延長3168m）993点
- 当事務所は名称決定を行う名称選定委員会に事業主体として参画し、助言等を行った。

本イベントは、誰もが参加しやすい取組を通じ、全国的に八十里越を発信するとともに、事業への愛着や親しみを育んだ事例である。計3,720もの応募が日本全国から寄せられ、八十里越の認知度向上にも一定程度寄与したと考えられる。

4. まとめ

2027年夏に暫定開通を控える八十里越は、新潟県と福島県を結ぶ新たな広域道路ネットワークの形成や、沿線地域の活性化にも大きく寄与する事業である。当事務所では八十里越の工事を推進するとともに、八十里越が単なる道路整備事業ではなく、地域と地域を繋げる重要な役割を有することを意識し、事業主体の強みを活かし様々な角度から工夫を凝らした広報活動を実践してきた。

上述の広報活動を通じて、八十里越を発信する機会は年々増加しており、事業に対する理解や期待感の向上に、一定程度寄与していると考えられる。また、近年では、八十里越開通後の地域振興に資する取組として、将来的な道路管理者になる新潟県と福島県が主体となり、「新潟・福島八十里越境界無限大エリア」デジタルスタンプラリー¹³⁾が開催されたり、地域の民間企業やNPO法人が自治体と連携して、八十里越の事業区間を含むルートを、風景街道に登録し、観光振興や地域活性化を見出す動きもみられる。

当事務所としては、1日でも早い開通を目指すとともに、引き続き、関係機関と密に連携した効果的な広報活動に努めていく。

参考文献

- 1) 国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所：国道289号八十里越 八十里越の歴史
(<https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/hatizyuuri/what/history.html>)
- 2) 日本山岳会 日本山岳会が選ぶ日本の山岳古道120選：30 八十里越え
(https://kodo.jac1.or.jp/kodo120_detail/30_hatijuri/)
- 3) 国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所：主要事業箇所のパンフレットデータ
(<https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/98/109/>)
- 4) YouTube 国土交通省長岡国道事務所：八十里越 PR動画 フルver.
(<https://www.youtube.com/watch?v=yHWXJG9Rtd4>)
- 5) YouTube 国土交通省長岡国道事務所：国道289号 新・八十里越
(<https://www.youtube.com/watch?v=dFtxeQ89zLY>)
- 6) 国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所：LETTER八十里越だよりバックナンバー
(<https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/hatizyuuri/letter/backnumber.html>)
- 7) 国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課：インフラツーリズムツアー検索

[\(https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/toursearch/\)](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/toursearch/)

8) 国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所：塩沢商工の1年生が八十里越の大規模橋梁工事を見学

[\(https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/hatizyuuri/successor/pdf/H30.10.11.pdf\)](https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/hatizyuuri/successor/pdf/H30.10.11.pdf)

9) 国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所：国道289号八十里越の現場を下田中学校の生徒が見学しました！

[\(https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/hatizyuuri/successor/pdf/R5.10.27.pdf\)](https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/hatizyuuri/successor/pdf/R5.10.27.pdf)

10) 新潟・県央情報交差点：国道289号 八十里越の早期開通の願いを込めたタイムカプセルを埋設、開く日は開通したい

[\(https://www.kenoh.com/2014/10/09_80ri.html\)](https://www.kenoh.com/2014/10/09_80ri.html)

11) 南会津町：八十里越道路の開通を見据えた三市町連携がスタート

[\(https://www.town.minamiaizu.lg.jp/material/files/group/3/2_89510862.pdf\)](https://www.town.minamiaizu.lg.jp/material/files/group/3/2_89510862.pdf)

12) 三条市：国道289号八十里越を象徴する橋梁とトンネルの名称を決定しました

[\(https://www.city.sanjo.niigata.jp/soshiki/kensetsubu/kensetsuka/kensetukanri/19968.html\)](https://www.city.sanjo.niigata.jp/soshiki/kensetsubu/kensetsuka/kensetukanri/19968.html)

13) 新潟県：【三条】“新潟・福島八十里越界限無限大エリア” デジタルスタンプラリー が7月18日から始まります

[\(https://www.pref.niigata.lg.jp/site/sanjou-kikaku/stamp rally-start.html\)](https://www.pref.niigata.lg.jp/site/sanjou-kikaku/stamp rally-start.html)